

# 博士論文の要旨および 博士論文審査結果の要旨

氏 名	馬 天 生
学 位 の 種 類	博士（社会学）
学 位 記 番 号	社会博甲第 12 号
学位授与の日付	2025 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
博 士 論 文 題 目	<b>中国の高齢者施設における リスクマネジメント研修プログラムの構築</b> The Construction of a Risk Management Training Program in Elderly Care Facilities in China
論 文 審 査 委 員	主査 川井 太加子 教授 副査 小野 達也 教授 副査 木下 栄二 教授

## &lt;博士論文の要旨&gt;

# 中国の高齢者施設における リスクマネジメント研修プログラムの構築

馬 天 生

## 研究の目的

中国の高齢者施設は、急速に拡大する需要に直面しつつ、専門人材不足やリスクマネジメント体制の未整備という課題を抱えており、介護事故の頻発と高額な賠償問題が施設経営を脅かし、社会全体の高齢者福祉サービスの質を低下させている。この状況を打破するためには、管理職のリスクマネジメント能力の向上が不可欠である。中国の既存の研修は実践性に乏しく、専門的で体系的なリスクマネジメント研修プログラムが存在しないため、中国の施設実態に即した研修プログラムの構築が急務である。

本研究は、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの課題を解決するため、管理者が活用できるリスクマネジメントおよび体制整備を支援する研修プログラムの構築を目的として実施した。

## 構成と内容

本論文は以下のとおり、第Ⅰ章から第Ⅵ章で構成されている。

第Ⅰ章 序論

第Ⅱ章 先行研究

第Ⅲ章 研究 1：中国の研修プログラムを構築するための研修項目の明確化

第Ⅳ章 研究2：中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの実態調査  
と研修プログラム案の作成

第Ⅴ章 研究3：研修プログラム案の検証

第Ⅵ章 研究総括

第Ⅰ章 序論

本研究の背景、研究の目的と意義、用語の定義と構成について、その概略を記述した。本研究の背景は、まず、中国における高齢者施設と事故防止の職員体制の背景を述べた。管理職と介護職のリスクマネジメント経験や必要な知識や技能が十分でない指摘されており、介護事故賠償問題がリスクマネジメントの重点を法的責任回避に向ける傾向があることが分かった。これに対処するために、事故防止の観点からリスクマネジメントの重要性と体制整備の進行の必要性を述べた。リスクマネジメント体制整備の視点から研修プログラムの構築とその必要性を論じた。研修プログラムの構築に関しては、日本のリスクマネジメントの実践方法と体制整備の内容を参考にする重要性を述べた。これらの点を踏まえ、本研究の目的は、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの課題を解決するため、管理者が活用できるリスクマネジメントおよび体制整備を支援する研修プログラムの構築を目指す。

第Ⅱ章 先行研究

本研究の目的を達成するため、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの研究、リスクマネジメント研修の研究、リスクマネジメントに関する政策、日本のリスクマネジメントの研究と実践の4つの視点から先行研究を概観し、リスクマネジメント研修プログラム構築の方向性を明らかにした。

第1節では、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントに関する研究論文(17編)をレビューし、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの5つの主要課題を明らかにした。具体的な課題は以下の通りであった。

①職員と高齢者およびその家族との間のコミュニケーション不足である。②介護職員がリスクマネジメントに関する知識やスキルを欠いていることである。③リスクアセスメントの重要性を認識しておらず、リスク情報に不足があることである。④事故原因分析が不十分であり、一般的な対策に偏っていることである。⑤事故防止体制（マニュアル，研修，安全管理部門）が整備されていないことである。これらの課題を解決するために、中国の研究者らがリスクマネジメント研修の強化を求められている旨が指摘されている。しかし、研修においては、研修効果が不十分であるという問題が指摘されている。研修効果が不十分である原因および研修の課題を明らかにすることが求められることから、第2節のリスクマネジメント研修に関する研究論文を整理した。

第2節では、まずリスクマネジメント研修に関する論文（8編）を検討し、研修の課題と研修プログラム構築の方向性を明らかにした。①研修の課題として、中国におけるリスクマネジメント研修内容の不十分さや体系化の欠如といった問題が指摘されている。②研修プログラム構築の方向性として、日本をはじめとする先進国のリスクマネジメント研修プログラムを参考にし、中国の研修プログラムを構築することを提案されている。

次に、研修内容の不十分さや体系化の欠如の課題について具体的な状況を確認するために、中国の高齢者施設における施設長，現場管理者，介護職員の3つの職種向けの代表的な研修プログラムにおけるリスクマネジメントに関する研修内容を整理した。その結果，リスクマネジメント研修項目について，施設長に対する研修項目が7項目，現場管理者に対する研修項目が14項目，介護職員に対する研修項目が1項目であると確認された。研修項目と内容の検討から，研修項目と内容が少ないなど，中国の研修プログラムに必要な研修項目が明確でないことが分かった。これにより，中国の研修プログラムを構築するための研修項目の明確化が本研究の研究課題として解決する必要があることが分かった。また，これらの研修項目の中でリスクマネジメント

トの体制整備に関わる内容は非常に少ないが、高齢者施設の体制整備は、政策の中で体制整備に対する基本的な要求を達成しなければならない。そのため、第3節ではリスクマネジメント体制整備に関する政策の整理を行った。

第3節では、中国におけるリスクマネジメントに関する主要な3つの政策を整理し、その政策における体制整備の要件を確認した。中国のリスクマネジメント体制整備の方向性は、誤嚥、転落、転倒などの9種類の介護事故のリスクアセスメントと事故防止対策を主軸とし、年間を通じて実施されるリスクマネジメント研修プログラムを通じて、職員のリスク対応能力と施設全体のリスクマネジメント実践能力の向上を目指していることが明らかになった。しかし、これらの政策では、高齢者施設におけるリスクマネジメントの活用方法と、リスクマネジメントの実践活動を支援するための体制整備の具体的な取り組みが明確でないという問題が挙げられる。

また、中国の行政資料を参考とし、中国のリスクマネジメント政策は国際規格ISO31000のリスクマネジメント指針に基づいて策定されていることが分かった。一方で、日本の行政資料から、ISO31000のリスクマネジメント指針が高齢者施設への導入方法、具体的な活用方法、具体的な体制整備の内容と成功経験の紹介が確認された。また第2節では、中国の研究者らが日本をはじめとする介護先進国の経験を参考にする必要があるという考えが示されている。そのため、第4節では日本のリスクマネジメントに関する研究、リスクマネジメントの実践方法、体制整備の内容を整理した。

第4節では、まず日本のリスクマネジメントに関する研究論文（8編）を整理した。日本の高齢者施設における介護事故リスクマネジメントに関する研究は、主にヒューマンエラーや組織的なリスクマネジメント体制の整備に焦点を当てて進められている。その特徴と課題を以下の4点に確認した。①介護事故の発生状況と賠償に関する現状、②事故の発生要因とヒューマンエラー、③リスクマネジメントの効果検証と理論的枠組み、④リスクマネジメント研修プログラムの開発であった。特に、ヒューマンエラーの問題はマ

ニユアルや研修だけでは解決が困難であると指摘されており、より根本的なリスクマネジメント体制の整備が必要である。日本の経験を参考にし、中国においてもリスクマネジメント体制の整備を進めることが重要であると示唆された。特に職員のリスクアセスメント能力の向上や組織的なリスクマネジメント体制の構築が求められている。

次に、日本の行政資料などを参考に、リスクマネジメントの実践方法と体制整備の内容を整理した。日本のリスクマネジメント体制整備と実践方法を参考にし、中国のリスクマネジメント課題を改善することができると考えられる。

上述の先行研究から得たリスクマネジメント研修プログラム構築の方向性として、まず日本の研修プログラムの内容を収集、整理し、第2節で指摘した中国における研修項目と内容の不足を補い、中国の高齢者施設に適した研修プログラムに必要な研修項目を明確にする必要がある。このことから、第Ⅲ章の文献調査を行った。

### 第Ⅲ章 研究1：中国の研修プログラムを構築するための研修項目の明確化

第Ⅲ章では、中国の高齢者施設に適した研修プログラムに必要な研修項目を明確化するため、文献調査を実施し、日本の高齢者施設で行われているリスクマネジメント研修プログラムを分析した。研修項目として、リスクマネジメントの基礎知識（5項目）、リスクマネジメントの基本方法（11項目）、事故防止マニュアルの作成と活用（5項目）、事故の原因分析と防止対策（9項目）、リスクマネジメント体制整備のあり方（8項目）の計38研修項目を設定した。これらの設定された38研修項目のうち、21の研修項目が新たに設けられたものであり、中国の研修内容の不足部分を補うものであった。

中国の高齢者施設における体制整備の主要責任者である施設長に、設定した研修項目の重要性をどのように認識しているかを明らかにするため、第Ⅳ章の調査を行った。

#### 第Ⅳ章 研究2：中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの実態調査 と研修プログラム案の作成

第Ⅳ章では、研修項目が中国の高齢者施設で適用可能であるかどうかを検証するため、中国の高齢者施設（30箇所）で実態調査を実施した。まず、中国の専門家4名を通じて、設定された38の研修項目の妥当性について検討を行った結果、中国のリスクマネジメントに関する法律内容と日本の＜法的視点からのリスクマネジメント＞内容が異なるため、その研修項目を削除し、37項目とした。これを用いて実態調査を行った。①リスクマネジメント体制整備に関する質問項目として、事故報告の仕組み、安全管理部門の運営など、事故防止体制整備に関する16質問項目と苦情対応体制整備に関する4質問項目が含まれており、②設定された研修項目に対する重要性の意識調査として37項目を設けた。

その結果①、事故防止体制整備の課題、安全管理部門の運営に関する課題、安全管理者の役割とその重要性に関する3点が明らかになった。これらの課題に対応するため、研修項目として「安全管理者の役割の明確化」、「事故防止対策の定着化」、「事故事例検討会議の実施方法」の3つが中国の高齢者施設における事故防止体制整備に効果的であることが分かった。結果②として、苦情対応体制の不備が重要な課題であることが明らかになった。この課題を解決するためには苦情対応体制の整備が不可欠であった。必要な研修項目として「苦情対応のプロセス」、「苦情対応の方法」、「インフォームドコンセントの重要性」、「家族と共にリスクマネジメントに取り組む」の4つの研修項目を中国の高齢者施設における苦情対応体制整備に適用可能であると判断された。これらの研修を導入することで苦情対応のプロセスが標準化され、利用者の不満解消や施設運営の円滑化が期待される。結果③では、すべての設定された研修項目に対して施設長が重要性を高く認識していることが確認された。しかし、37研修項目のうち、「新たな研修項目」群の重要性認識が「既存の研修項目」群に比べて低いことが明らかになった。また、「新

たな研修項目」群について、施設長の介護関連業務年数に重要な影響を与えることも明らかになった。特に、介護経験年数が「5年以上」の施設長は、新たな研修項目をより深く理解し、その重要性を高く評価する傾向があった。これらの結果から、「新たな研修項目」内容を作成する際には、介護の基礎知識とリスクマネジメントの知識とのつながりにを明確にし、よりわかりやすく説明を加える必要があることが示唆された。これにより、管理者が新たな研修内容を実践的に理解しやすくなったと考えられる。

第Ⅲ章と第Ⅳ章の結果を基に、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメント研修プログラム案を作成した。次に、作成した研修プログラム案について、中国の管理職が活用できるかどうかを検証するため、第Ⅴ章の調査を行った。

### 第Ⅴ章 研究3：研修プログラム案の検証

第Ⅴ章では、作成した研修プログラム案が介護現場で管理者にとって実際に活用可能であるかを検証するため、3つの調査を実施した。

まず、調査1では、中国S市の高齢者施設研修センターにおいて研修会を開催し、研修プログラム案の主要な概念と内容について参加者（136名）の理解度や意見を収集した。その結果、研修プログラム案の適用可能性と有効性が評価された。特に、リスクマネジメントに関する基礎知識を有する参加者は、内容を比較的高い理解度で把握していることが明らかになった。研修内容は、ヒヤリハット報告や事故防止マニュアルの作成、事故原因の分析、リスクマネジメント体制の整備など、現場の具体的な課題解決に役立つと評価されている。中でも、ヒヤリハット報告やマニュアル活用に関する内容は現場での実践的な活用が期待され、事故防止や業務改善につながるという認識が参加者の間で共有されていた。

次に、調査2では、高齢者施設の管理者（123名）に対して研修プログラム案の内容の有用性を評価し、その有効性を定量的に確認した。結果とし



て、プログラム全体の有用性は高い評価を得た。特に、既存の研修内容および実務に直結する具体的な15の研修項目は高く評価された。一方で、ヒヤリハットや危険予知トレーニングに関する5つの新規研修項目、リスクマネジメント体制整備に関する4つの新規項目、さらに「排泄介助時の事故防止対策」および「入浴介助時の事故防止対策」の2つの既存項目、合計11項目については有用性が低く評価されていた。また、施設内研修が定期的に開催されている施設では、研修プログラムの有用性がより高く認識される傾向が確認された。

最後に、調査3では、調査2を基に、有用性評価が低かった11の研修項目について、中国S市の4つの高齢者施設の管理者への調査を実施した結果、評価が低かった原因が明らかになり、以下の課題が浮き彫りになった。

#### 1. 専門能力の不足とリスクマネジメントの実施困難

管理者や介護職員の専門能力が不足しており、リスクマネジメントの実施が困難であると指摘された。特に、ヒヤリハット報告制度や危険予知トレーニングの定着が進んでいない点が問題視されている。

#### 2. 施設設備の不備と安全確保の課題

施設設備が安全ニーズを満たしておらず、トイレや浴室の安全設計が不十分であるとの指摘があった。また、人件費抑制が優先されることで、安全性が損なわれる懸念もある。

#### 3. 介護保険制度の未整備

介護保険制度が未整備であるため、リスクマネジメントが事故賠償に焦点を当てた短期的な対策にとどまる傾向がある。また、要介護度に関係なく入居が可能なため、リスク管理が複雑化している。

#### 4. 家族とのリスク情報共有の困難さ

家族とリスク情報を共有することが難しく、リスク管理に対する理解を得られないケースが多いことが課題として挙げられた。

これらの課題から、研修プログラム案の見直しについては、まず、ヒヤリハットと危険予知トレーニングに関する項目を修正し、具体的な事例分析を増やすことが必要であると考慮される。これにより、中国の管理者がこれらの活動の重要性を理解し、実施する流れを把握できるようになると考えられる。また、「排泄介助時の事故防止対策」や「入浴介助時の事故防止対策」については、中国の高齢者施設で多機能型のトイレや入浴設備の導入が進んでいるとのことである。研修プログラムの修正では、日本の対策を参考にし、設備に依存したリスク低減策を取り入れることが有効であると考えられている。さらに、中国では介護保険制度が試行されているものの、普及していないため、事故による苦情対応を専門的に扱う第三者機関が存在しないという問題がある。このため、研修プログラム案における「リスクマネジメント体制整備のあり方」の4つの研修項目は必要であると考えられる。事故による苦情に対応するための研修項目は必須であり、高齢者施設が参考にできる内容を提供することも重要であると認識されている。

以上のことから、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメント研修プログラムを構築した。研修プログラムの内容は以下の5つの主要な研修項目とそれぞれの必要な37研修項目を構成した。

## 1. リスクマネジメントの基礎知識

リスクマネジメントの概念、リスクマネジメントの必要性、リスクマネジメントのプロセス、リスクマネジメントの考え方、介護事故の基礎知識（計5項目）

## 2. リスクマネジメントの基本方法

リスクアセスメントの概念，建物の見直し，用具の点検，介護動作の見直し，利用者個別危険の把握，職員ルール違反への対応，ヒヤリハットの概念，ヒヤリハット報告書の書き方，ヒヤリハット報告書の活用方法，危険予知トレーニングの概念，危険予知トレーニングの進め方（計 11 項目）

### 3. 事故防止マニュアルの作成と活用

事故防止マニュアルの作成，事故防止マニュアルの活用方法，安全チェックリストの作成，事故発生時の対応方法，緊急時の対応方法（計 5 項目）

### 4. 事故原因分析と防止対策

事故原因分析法，ヒヤリハット分析，事故の未然防止策，転倒・転落事故の防止対策，食事介助時の事故防止対策，排泄介助時の事故防止対策，入浴介助時の事故防止対策，認知症利用者の事故防止対策，事故の再発防止策（計 9 項目）

### 5. リスクマネジメント体制整備のあり方

安全管理者の役割の明確化，事故防止対策の定着化，事故事例検討会議の実施方法，苦情対応のプロセス，インフォームドコンセントの重要性，苦情対応の方法，家族と共にリスクマネジメントに取り組む（計 7 項目）

これらの研修項目を通じて，リスクマネジメント体制の整備と事故防止の効果的な取り組みを支援する。

## 第Ⅵ章 研究総括

第Ⅵ章では、第Ⅱ章から第Ⅴ章までの研修プログラムの構築過程を説明した。

## ＜博士論文審査結果の要旨＞

論文提出者：馬 天 生

論文題目：中国の高齢者施設におけるリスクマネジメント研修プログラムの構築

学位申請の種類：甲（課程博士，社会学）

馬天生氏は、2014年大学の卒業論文で中国の高齢者施設における事故防止マニュアルの未整備や、管理者・介護士のリスクの認識不足を指摘しました。卒業後、大手高齢者施設の現場管理者としてリスクマネジメント研修や家族対応を担当しましたが、そこでは、経験や資料不足、管理体制の未整備により業務が管理者一人に集中し、事故防止会議や安全管理部門が十分に機能しない課題を経験しました。2017年4月に桃山学院大学大学院前期課程へ入学し、2019年3月に「中国の高齢者施設におけるリスクマネジメント」をテーマとする修士論文を執筆し、修士号を取得しました。同研究で、リスクマネジメントの知識不足と管理体制の遅れが現場の課題の主要因であると結論付け、研修プログラム構築の必要性を提言しました。

この研究をさらに発展させるため、2019年4月に博士後期課程に進学し、在籍延長を含む6年間の研究を経て、本博士学位申請論文を完成させました。

## 1. 論文の概要

本論文は、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの課題を解決するために、日本のリスクマネジメント体制を参考にした研修プログラムを構築し、その適用可能性と有用性を検証したものです。研究は以下のⅥ章構成となっています。

## 第Ⅰ章 序論

中国の高齢者施設は急速なニーズの増加に対応する中で、専門人材の不足やリスクマネジメント体制の未整備、介護事故の頻発と高額な賠償問題という課題に直面しています。これにより施設経営が圧迫され、高齢者福祉サービスの質低下が懸念されています。現場管理者のリスクマネジメント能力向上が不可欠であるにもかかわらず、現行の研修プログラムは実践性や体系性が不足しています。そこで本研究では、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメント研修プログラムの構築を目的とし、その課題と解決策を提示しています。

## 第Ⅱ章 先行研究

中国の高齢者施設におけるリスクマネジメント研究、研修プログラム、政策、日本の実践的リスクマネジメントの4つの視点から先行研究を整理し、中国の現状における5つの主要課題を明らかにしました。特に、コミュニケーション不足、職員の知識・技能不足、事故原因分析の不十分さ、事故防止体制の未整備が大きな課題であると結論付けています。

## 第Ⅲ章 研究1：中国の研修プログラムを構築するための研修項目の明確化

中国の高齢者施設に適した研修プログラムの必要な項目を明確化するため、文献調査を実施し、日本の高齢者施設で行われているリスクマネジメント研修プログラムを分析し、その結果、中国で必要な38の研修項目を設定しました。その中に、新たな研修項目が21項目、既存の研修項目が17項目含まれています。

## 第Ⅳ章 研究2：中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの実態調査と研修プログラム案の作成

研究1で設定した38項目の妥当性について検討を行い、その結果、中国のリスクマネジメントに関する法律内容と日本の＜法的視点からのリスクマネジメント＞内容が異なるため、その研修項目を削除し、37項目としています。実態調査では、中国国内30の高齢者施設を対象に、リスクマネジメント体制整備の状況と研修項目の重要性について検証を行い、施設長の介護業務経験が研修内容の理解度に影響を与えることが判明し、研修プログラムの必要性が確認されました。

#### 第V章 研究3：研修プログラム案の検証

研修プログラムを用いて中国S市の高齢者施設研修センターで研修会を開催し、管理者へのアンケート調査・インタビュー調査を実施しました。その結果、研修プログラムの大半は有用であると評価されましたが、「ヒヤリハット報告」「危険予知トレーニング」「苦情対応プロセス」など一部の新規項目において改善の必要があることが示されました。

#### 第VI章 研究総括

研究全体の成果をまとめ、中国の高齢者施設でのリスクマネジメント体制強化に向けた今後の課題を提案しました。

## 2. 評価

以下、ルーブリックに基づき、本論文の評価を述べます。

「研究テーマの設定」についてです。この研究は、中国の高齢者施設におけるリスクマネジメントの課題解決をテーマにしており、社会的意義が非常に高いと評価できます。特に、中国の高齢者施設が直面する専門人材不足、リスクマネジメント体制の不備、介護事故の多発という現実的な課題に着目し、具体的な解決策として研修プログラムの構築を目指した点が優れています。また、日本の先進事例を参考にするだけでなく、中国独自の状況に対応

した研修プログラムを開発するという現実的かつ応用可能なアプローチも評価できます。

「**研究内容**」は、現状の課題分析から改善案作成までが論理的に整理され、具体的な成果が得られています。研修プログラムは 37 項目に分類され、基礎から事故防止・苦情対応まで幅広く網羅し、中国の施設運営に実用的に活用可能です。また、実態調査により参加者の評価や理解度が項目ごとに可視化され、設備不備やリスク情報共有の課題が明確化されるなど、改善への具体的な示唆が得られています。

「**研究活動の妥当性**」については、文献調査、実態調査、そして複数の理解度調査を組み合わせた体系的かつ実証的な手法が採用されており、妥当であるといえます。特に、文献調査を通じて、日本のリスクマネジメント研修の先進事例を参考にし、38 項目の研修内容を設定。さらにその内容が中国の状況に適合するかを専門家に確認して 37 項目に絞り込んでいる点、現地調査（30 施設への質問項目調査と意識調査）を通じて、現場の実態と課題を把握し、新規研修項目の有効性が確認されている点、S 市での研修会、管理者アンケート、インタビュー調査を行い、プログラムの有用性を段階的に評価している点が信頼性を高めていると言えます。また、調査結果の分析において、施設長の介護経験年数が新規研修項目の評価に影響を与える点や、中国独自の制度・施設設備の不備が課題の根本原因であることも的確に指摘しており、研究活動は現場の状況をよく反映していると言えます。

「**研究の内容とその記述、成果**」については、研究内容は詳細であり、「現状の課題分析研修項目の設定 → 実態調査 → 改善案作成」という流れが論理的に構成されています。

研修プログラムの構築では、リスクマネジメント研修を 37 項目に分類し、基礎知識から事故防止対策、苦情対応体制まで幅広く網羅しています。これらは実際の中国の施設運営に適用可能な実用的な内容であり、事故防止体制の整備に貢献するものです。現地調査の具体性も高く、参加者の評価をもと



に理解度の差や有用性が具体的に示され、プログラム改善への有益な示唆が得られています。また、低評価項目の原因特定により、設備の不備や家族とのリスク情報共有の難しさなど現場の課題が浮き彫りになっています。改善案の提案も実用的であり、ヒヤリハット報告や危険予知トレーニングへの具体例の追加、日本の対策を参考にした設備改善が現場での定着を促進する効果的な施策となっています。さらに、介護保険制度が未整備という中国の独自背景を考慮し、短期対策と長期的なリスクマネジメント構築の両面に取り組んでいる点は高く評価できます。

2025年2月3日に最終試験（口頭での試験）を実施しました。本研究に対して審査委員からは、①用語の定義の不備、②Ⅲ章の日本研修プログラム18件の選定根拠の説明不足、考察に論理の飛躍と思われる箇所がある点、③各章、各節のつながりが分かりにくい箇所がある点、④Ⅳ章の調査対象施設の選定理由、新たな研修項目と既存の研修項目、結果等の説明不足の指摘、⑤Ⅴ章では、研修会等の説明不足についての指摘、⑥Ⅵ章の研究総括の論点整理が不十分等の指摘を頂きました。

一方、評価できることは、馬氏は、中国からの留学生として、言葉の壁や文化の違いを克服しながら、日本の高齢者施設における介護サービスの課題と実態をしっかりと理解して、研究に取り組んだ点にあります。本研究のテーマであるリスクマネジメントは、中国の高齢者施設ではまだ十分に浸透していない分野です。その中で馬氏は、現場経験と先行研究を基に課題を明確化し、体系的なリスクマネジメント研修プログラムの構築に至りました。こうした研究成果は、言語的・制度的なハードルを乗り越えた努力の結晶であり、高く評価されるべきものであると思います。

馬天生氏の博士論文は、以上のようにいくつかの問題を含んではいますが、現時点で改訂可能な箇所はすべて改稿した上で、審査員一同は全員一致して、本論文が博士学位請求論文に値することを認定したことを、ここにご報告申し上げます。

2025 年 3 月 17 日

審査委員（主査）： 川井 太加子

審査委員（副査）： 小野 達也

審査委員（副査）： 木下 栄二